

安倍氏の隆盛 支えた交易

まり朝鮮半島から来た人々と深い関係を持つ人々の古墳群とされており、大陸から持ってきたさまざまな遺物が出土している。そこで見つかると、日本ではまた数例の出土例しかない雁木玉が、二戸市の諏訪前古墳から出てきている。

【写真①】は、バックル、銙帯金具といわれるもので青銅製。これは律令国家が役人に与える階級を示すもので、役職をもらった人だけが身に着けられる。これと同じ

ように、律令国家が作った古銭・和同開珎も東北地方北部の古墳から出てくる。ということは、律令国家と東北地方北部の交流を示している。一方、東北地方北部ではさらに北方文化との交流もあったということを考えなければならぬ。

陸奥は宝の山

10世紀に入ると、さまざまな文献に東北地方、陸奥の国の特産物が盛んに出てくる。金はもちろんだが、馬が頻りに出てくる。東北北部の馬はブランド品だった。そのほかに漆も重要な特産品で、毛皮製品や琥珀なども特産品だったと考えられている。

この他に、北方の産物とされるタカの羽根やアザラシの皮、ヒクマの皮など北海道を通して入ってくるようなものが、盛んに陸奥の国の産物として出てくる。

て出てくる。昆布は寒流域で育つため、三陸沿岸以北でないと採れないので、特産品だった。こういったさまざまなものが、陸奥の国の産物として紹介されている。そうすると、陸奥の国は宝の山に近い。いろいろな産物が採れた場所であり、運ばれてきた地域ということになる。

10世紀はじめ、菅原道真が陸奥守の死を悼んだ漢詩の中に、蝦夷との交易は莫大な利益を得る、えらい金もうけができる」と記されている(『菅家後集』哭奥州藤使君)。ある意味で、みちのくは宝の山として捉え直す必要があると考えている。

物資が、中央のどういふ交流の中でのようなルートで運ばれていったのか。そのルートを考える上でも、鳥海柵の位置というのは、非常に重要な場所だったのでないかと考えられる。

利権と拡大

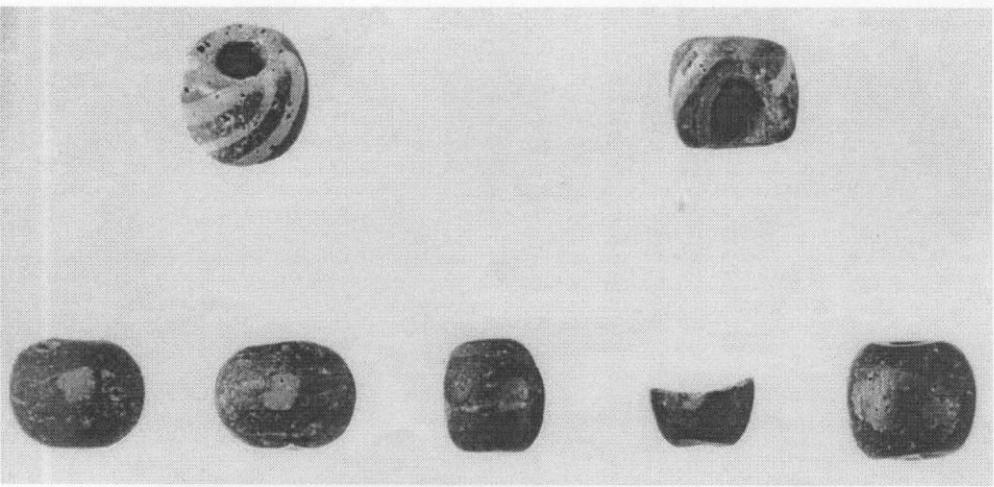
陸奥のさまざまな産物を交易品として中央に渡すまでの利権をどこが握っていたか。私は、安倍氏がこの利権をきちんと握ったのだらうと思っている。

その一つの大きなきっかけは、811(弘仁)2年、和我和藤原と斯波の三郡を置くことにある。これは、胆沢や江刺に三郡が加わったというだけではない。

藤原は、閉伊つみの太平洋岸からいろいろな物資が入ってくるルートとして重要である。和和は、日本海に抜けるルートとして非常に重要な場所である。今でも横断道は花巻から釜石に、縦貫道は北上から秋田に抜ける道路になっている。

斯波は、岩手県北部、糠部、爾薩、さらには北海道にまで連なるルート。今の縦貫道と同じ、青森まで抜けていく重要な拠点となった。こうした陸奥の国の拡大と交易ルート確保というのが、弘仁2年に完成したと考えられる。

田村麻呂の時代に胆沢城に鎮守府が移され、そして弘仁2年に三郡が置かれる。この間に、陸奥の国の拡大という非常に大きな転機があったのだらうと思っ



【写真①】雁木玉(「諏訪前遺跡一第8次・45次調査」二戸市埋蔵文化財センター)

大陸と中央と

市の諏訪前古墳群から出土した。同じようなものが、奈良県の新沢千塚126号墳から出てくる。新沢千塚は、渡来系ツ

ンボ玉で、どちらも二戸

新沢千塚は、渡来系ツ

金ヶ崎の国指定史跡

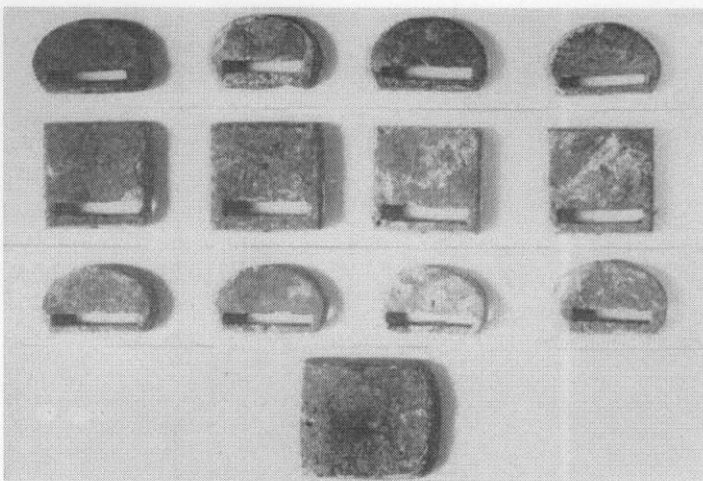
鳥海柵を知る

町民大学2013 シンポジウムより

6

高橋 信雄氏 (花巻市立博物館長)

蝦夷社会から安倍氏へ ①



【写真②】銙帯金具(「西根古墳と住居址」金ヶ崎町教育委員会)